

## 学会だより

### ◇ 平成 16-17 年度における幹事の交代

この期間における幹事の交代は以下のとおり（いずれも選出地区からの転出による）

〈前任〉 〈後任〉  
松岡誠 渡邊（高木）洋子（会長指名幹事；平成 16 年 7 月より）

池田良一 田部井豊（選出幹事；平成 17 年 4 月より）

山元皓二 奥野員敏（選出幹事；平成 17 年 4 月より）

### ◇ 日本学術会議の会員に関して

現行の日本学術会議第 20 期の会員として、日本育種学会の会員である武田和義氏が選出され、昨年より活動をされていることをお知らせいたします。なお、本学会では、平成 16 年 12 月に幹事による投票に基づき、日本学術会議に設置された日本学術会議会員候補者選考委員会に対して、日本学術会議の会員としてふさわしい人物に関する情報提供をしております。

### ◇ 常任幹事会

開催日：平成 18 年 3 月 4 日

場所：北海道大学学術交流会館

出席者：会長 喜多村啓介、副会長 谷坂隆俊、吉田薫、金澤章、大澤良、村井耕二、高野哲夫、堤伸浩、高畑義人、富田因則、門脇光一、佐藤裕、根本博、勝田真澄、森川利信、奥本裕、熊丸敏博

各常任幹事からの経過報告後、会計関連事項、植物育種学辞典関連の会計、大会での発表形式、過去の雑誌掲載論文の著作権の取り扱い、学会誌のカラーページの扱いと費用請求、学会誌の新査読システム、男女共同参画学協会連絡会の加盟、学会誌の配布、平成 18-19 年度役員、地域活動、次大会における幹事会・総会の運営、ホームページ、役員への呼称、遺伝子組換え作物の栽培規制の状況、次年度の大会の開催等について確認ならびに討議を行った。

### ◇ 幹事会

開催日：平成 18 年 3 月 28 日

会場：東京農工大学 連合農学研究科棟

出席者：会長 喜多村啓介、副会長（次期会長）谷坂隆俊、吉田薫、金澤章、渡邊和男、大澤良、村井耕二、高野哲夫、堤伸浩、高畑義人、富田因則、佐藤裕、根本博、勝田真澄、森川利信、奥本裕、川上直人、熊丸敏博、阿部利徳、石川隆二、西尾剛、田部井豊、平野久、藤村達人、丸橋亘、奥野員敏、倉田のり、神山康夫、上島脩志、山田利昭、吉田元信、前川雅彦、村田達郎、次期副会長 長

戸康郎、平田豊、江面浩、中園幹生、寺地徹、加藤謙司、長谷川博、小松田隆夫、吉村淳、佐藤光、佐々英徳、石本政男、佐野芳雄、星野次汪、岩田洋佳、佐々木卓治、矢野昌裕、房相佑、間野吉郎、阿部知子、木庭卓人、片山義博、野村和成、野々村賢一、掛田克行、小島昭夫、山岸博、石井尊生、辻本壽、佐藤和広、渡部信義

#### 1. 武田和義 第 20 期 日本学術会議会員より

議事に先立って、武田和義 第 20 期 日本学術会議会員より、新しい体制となった日本学術会議における、会員の任期、会員の選考、連携会員の新設等に関し、従来からの変更点が紹介された。また、政策提言、科学者間のネットワーク構築、社会への啓発等の日本学術会議のもつ役割について紹介がなされた。それらをふまえ、今後の学協会および学問分野と日本学術会議の関係について意見交換が行われた。

#### 2. 各常任幹事報告

(1) 広告代理に関する契約、学会誌出版および会員管理等の委託業務に関する契約、植物育種学辞典の出版に関する契約、科学研究費補助金審査委員候補者推薦、会員数（2006 年 2 月の時点で 2,473 名）、講演要旨の広告の料金設定、役員への呼称の変更について報告がなされた。

(2) 本学会による、イネゲノム解説記念シンポジウム（2006 年 3 月 22 日つくば国際会議場で開催）の協賛、北海道バイオ産業振興協会主催の遺伝子組換え作物に関する中高生による討論会（2006 年 2 月 18 日札幌市で開催）、および、第 9 回植物の嫌気応答に関する国際会議（2007 年 11 月 19-23 日宮城県で開催）の後援について報告がなされた。

(3) 2005 年春季・秋季合同大会（筑波大学）の開催報告、2006 年春季大会（東京農工大学）ならびに次大会の開催予定、講演数の変遷に関する報告がなされた。2005 年春季・秋季合同大会での参加者は 783 名、一般講演総数は 396 題（内取り消し 2）であった。2006 年春季大会の一般講演総数は 265 題（内取り消し 2 題）、参加者は後の集計で 598 名であった。また、この大会より一般講演に液晶プロジェクターが導入された。次大会（2006 年秋季大会）は、愛媛大学（委員長：山口聡氏）において 9 月 21 日から 9 月 24 日の日程で行われる予定である。

(4) 本学会からの科学研究費補助金の申請状況が報告された。

(5) 本学会が申請したテーマ「遺伝子組換え作物研究の現状と課題」により行われた平成 17 年度日本農学会シンポジウムについて報告がなされた。また、平成 18 年

度日本農学賞に本学会が推薦した岩永勝氏が決定したことが報告され、同氏の受賞講演を含む第77回日本農学大会(平成18年4月5日 東京大学において開催)の内容が紹介された。

- (6) 本学会の英文誌ならびに和文誌に関して、雑誌発行、編集、論文の審査および投稿、on line journalのアクセスに関する状況報告がなされた。英文誌で論文数の顕著な増加がみられていること、編集委員のうち19名が任期満了で交代となること、英文誌に関してオンライン投稿の導入を検討していること等が報告された。
- (7) 本学会のホームページに関して、現在、日本語版と英語版に掲載されている各項目の説明がなされた。また、カウンターを設置したこと、アクセス件数、役員のリストを掲載していく方針について報告がなされた。

### 3. 議事

#### (1) 平成18-19年度の役員について

平成18-19年度の会長指名幹事、常任幹事、会計監事の推薦、編集委員長、編集委員、日本農学会評議員および日本農学会運営委員の推薦について提案があり、いずれも原案どおり承認された。また、財団法人農学会 技術者推進委員会委員について報告がなされた。役員については下記を参照のこと。

#### (2) 平成18年度学会賞等選考委員(6名)の選出

平成18年度学会賞等選考委員に関する選挙が行われ、6名が同委員に決定した。委員については下記参照のこと。なお、委員長は内規に従い副会長が務める。

#### (3) 平成18-19年度シンポジウム委員(5名)の選出

平成18年度学会賞等選考委員に関する選挙が行われ、5名が同委員に決定した。委員については下記参照のこと。なお、大会の会期中に委員会が開催され、互選により委員長が選出された。

#### (4) 第3回(平成17年度)論文賞の選考

第3回(平成17年度)論文賞に関して論文賞選考委員会より推薦された候補について投票を行い、次の2件が論文賞に決定した。

#### 〈日本育種学会 論文賞 第5号〉

論文名: Construction and evaluation of chromosome segment substitution lines carrying overlapping chromosome segments of *indica* rice cultivar 'Kasalath' in a genetic background of *japonica* elite cultivar 'Koshihikari'. (日本型優良品種コシヒカリを遺伝的背景としたインド型品種 Kasalath の染色体断片置換系統群の作出と評価)

著者: Ebitani T, Takeuchi Y, Nonoue Y, Yamamoto T, Takeuchi K, Yano M (蛸谷武志, 竹内善信, 野々上慈徳, 山本敏央, 竹内香純, 矢野昌裕)

掲載誌: *Breeding Science* 55 (1):65-73.

#### 〈日本育種学会 論文賞 第6号〉

論文名: Putative UDP-galactose epimerase and metallothioneine of *Paspalum vaginatum* enhanced the salt tolerance of rice, *Oryza sativa* L. from transplanting to harvest stages (イネ科海水耐性シバ: *Paspalum vaginatum* のUDP-ガラクトース-エピメラーゼ (PvUGE1) およびメタロチオネイン (PvMET1) を導入したイネにおける移植期から収穫時期の耐塩性向上効果について)

著者: Endo N, Yoshida K, Akiyoshi M, Yoshida Y, Hayashi N (遠藤昇, 吉田光毅, 秋吉美穂, 吉田泰子, 林奈緒子)

掲載誌: *Breeding Science* 55 (2):163-173.

#### (5) 平成17年度決算報告

平成17年度決算に関して、基金等の扱い、会費納入率、雑誌の送付や運営に関する費用の節減等について報告がなされ、同案が承認された。また、外国会員のカード支払いを導入すること、会費請求時期を見直すこと、団体会員への督促状送付の仕方を変更すること等が報告された。

#### (6) 平成18年度予算案の検討

学会分担金に関する変更、大会におけるポスター発表の導入に関する費用の予備費としての計上、オンラインジャーナルの作成費用の減額等を含む平成18年度予算案が提案され、承認された。

#### (7) 平成19年(2007年)春季大会開催地について

平成19年(2007年)春季大会開催地として茨城大学が提案され、承認された。

- (8) 過去の学会誌掲載論文の著作権の取り扱いについて  
科学技術振興機構のアーカイブ事業による全掲載論文の電子化の対象誌として「育種学雑誌」を含む本学会の学会誌が選定されたことに伴い、異議がでない場合には過去の論文における著作権の扱いを学会に属するものとして扱うことが提案され、承認された。なお、著作権の扱いに関しては、総会において周知され、加えて、学会誌、web上において周知される予定。

#### (9) 大会での発表形式について

今後の大会での発表形式について以下の案が提案され、承認された。

- 1) 大会における発表形式は従来どおり口頭発表を主体としたものとする。
- 2) 開催校の状況に合わせて部分的にポスター発表を導入することを可とする。
- 3) 口頭発表に加えてポスター発表を行う場合の発表申込者の口頭発表・ポスター発表への振り分け方法は、大会の運営委員会に一任する。振り分けに際しては、発表者の希望をできる限り優先させる。

#### (10) 男女共同参画学協会連絡会への加盟について

男女共同参画学協会連絡会について、本学会が同連絡会への正式加盟を目指すこと、学会分担金を支出すること、本学会の委員を吉田薫氏が担当することが提案され、承認された。

## 4. 関連報告

## (1) シンポジウム委員会

秋季大会におけるシンポジウムの採択課題が報告された。採択課題は以下のとおり。

## 採択課題 1

課題名：「植物と寄生者との相互作用」理論と機能からの育種の方向性

課題責任者：貴島祐治（北大・院・農）・安井秀（九大・院・農）

## 採択課題 2

課題名：「中四国地域に根ざした作物における転移因子の解明と応用技術開発の新展開」

課題責任者：富田因則（鳥取大・農）

## (2) 地域活動

各地域幹事から地域活動の状況について報告がなされた。本年における活動状況に応じた次年度の活動費案が提案され、承認された。前年度からの変更点として、特に中部・北陸の両地域において活発な活動が行われているとの認識から、中部・北陸に対して10万円を上限とした支給を行うことを含む。

これまでの記者レクの状態と実際の報道のされ方について包括的な報告がなされた。

## (3) SABRAO

2005年8月につくば市で開催されたSABRAOの大会に関して、16カ国から390名（うち海外から180名）の参加があり、盛況に終わったことが報告された。また、次大会は2010年にオーストラリアのケアンズにおいて同国の育種学会との共催により開催される予定であることが報告された。

## (4) 植物育種学辞典委員会

植物育種学辞典の執筆者への謝礼、ならびに、出版後の修正の要請への対応に関する検討状況、辞典の販売状況が順調であること等が報告された。

## (5) 財団法人農学会 技術者推進委員会

財団法人農学会 技術者推進委員会に関する本学会の取り組みとして、会員による研究会への参加ならびに審査委員の資格の取得等について報告がなされた。

## (6) 遺伝子組換え作物の栽培規制問題について

地方自治体による遺伝子組換え作物の栽培規制の問題を中心に、関連する法令、研究開発、意見書の提出等に関する状況報告と意見交換を行った。

## ◇ 総会

開催日：平成18年3月29日

会場：東京農工大学農学部講堂

## 1. 各常任幹事報告

## 2. 第3回（平成17年度）日本育種学会論文賞の発表（幹事会議事参照）

## 3. 議事

## (1) 平成17年度決算報告（下記参照）・会計監査報告

## (2) 平成18年度予算案の審議（下記参照）

## (3) 過去の学会誌掲載論文の著作権の取り扱いについて（幹事会議事参照）

## (4) 次期開催校（愛媛大学）の紹介

## (5) 会計監事（下記参照）の選出

## (6) 平成18-19年度学会役員等（下記参照）の紹介

## 4. 新会長挨拶

議事はいずれも異議なく承認された。

## ◇ 平成18-19年度日本育種学会役員等

会 長 谷坂隆俊

副会長 長戸康郎

## 幹事

## 選出幹事（40名）

北海道：石本政男、佐藤裕、佐野芳雄、三上哲夫

東 北：原田竹雄、森宏一、阿部利徳、西尾剛、星野次汪

関東1：江面浩、大川安信、大澤良、岩田洋佳、佐々木卓治、矢野昌裕

関東2：房相佑、間野吉郎、阿部知子、木庭卓人

関東3：片山義博、平田豊、丸橋亘、野村和成、川合伸也

中 部：野々村賢一、古田喜彦、北野英己、掛田克行、小島昭夫

近 畿：長谷川博、山田利昭、山岸博、石井尊生

中国・四国：加藤鎌司、辻本壽、佐藤和広

九州・沖縄：村田達郎、藪谷勤、渡邊（高木）洋子、山川理

## 会長指名幹事（10名）

奥本裕、中園幹生、勝田真澄、小松田隆夫、吉村淳、佐藤光、熊丸敏博、佐々英徳、寺地徹、渡部信義

## 常任幹事

庶 務：大澤良（幹事長、兼地域）、奥本裕（総務）、平田豊（国際・渉外）、北野英己（学会間連携、兼地域）、江面浩（GMO関連）、中園幹生（科研費、農学会、兼地域）、寺地徹（ホームページ）、阿部利徳（地域）、加藤鎌司（地域）

会 計：佐藤裕（兼地域）、長谷川博（兼地域）

英文誌：勝田真澄、小松田隆夫

和文誌：吉村淳、佐藤光

集 会：熊丸敏博（兼地域）、佐々英徳

## 会計監事

木庭卓人、門脇光一

## 編集委員長

奥野員敏

## 編集委員

[新委員]（19名）：阿部純、Darshan S. BRAR、平井正志、井辺時雄、加藤恒雄、河瀬眞琴、喜多村啓介、森直樹、

西尾剛, 野田和彦, 大島正弘, 佐藤隆徳, 田原誠, 寺地徹, 渡邊敦史, 許東河, 山口聰, 山本俊哉, 米澤勝衛  
[継続委員] (10名): J. Michae Bonman, Andris Kleinhofs, 山岸博, 矢野昌裕, 小川紹文, 加藤浩, 辻本壽, 銭前 (Qian Quian), Ahn Sang-Nag, 大澤良

#### 日本農学会関連

評議員: 谷坂隆俊, 長戸康郎

運営委員: 中園幹生

#### その他の学会推薦委員

財団法人農学会 技術者推進委員会委員: 平田豊

男女共同参画学協会連絡会委員: 吉田薫

#### 学会賞等選考委員会委員

長戸康郎 (委員長), 佐野芳雄, 西尾剛, 北野英己, 山田利昭, 佐々木卓治, 矢野昌裕 (次点: 古田喜彦, 三上哲夫, 辻本壽, 山岸博)

#### シンポジウム委員会委員

三上哲夫 (委員長), 大澤良, 加藤鎌司, 江面浩, 辻本壽 (次点: 石本政男, 大川安信)

### ◇ 平成 17 年度決算および平成 18 年度予算

収入の部	平成 17 年度決算	平成 18 年度予算
1. 前年度繰越金	2,710,798	3,958,287
2. 会員会費	18,323,678	17,660,000
3. 賛助会員会費	1,160,000	1,100,000
4. 助成金	2,100,000	2,100,000
5. 別冊等頒布	2,072,240	3,415,000
6. 雑収入	3,961,089	3,600,050
7. 寄付金	1,740,651	0
8. 運営基金より繰入	2,400,000	0
合 計	34,468,456	31,833,337

支出の部	平成 17 年度決算	平成 18 年度予算
I. 事業費	20,260,615	20,269,000
1. 雑誌刊行費	14,684,975	14,235,000
2. 別冊刊行費	2,354,275	3,250,000
3. 大会費	1,142,000	1,200,000
4. シンポジウム費	150,955	300,000
5. 学会賞費	284,950	700,000
6. オンライン費	1,087,800	584,000
7. 名簿作成費	555,660	0
II. 運営費	10,193,706	11,151,860
1. 学会分担金	272,866	414,000
2. 学術会議関連費	353,019	100,000
3. 事務担当者手当	380,000	380,000
4. 事務費	2,605,018	4,200,000
1) 庶務	639,818	1,600,000
2) 編集	1,795,000	2,150,000
英文誌	1,138,378	1,400,000
和文誌	656,622	750,000

3) 集会	127,930	300,000
4) 会計	42,270	150,000
5. 事務委託費	4,672,500	4,672,500
6. 通信費・送料	858,408	860,000
7. 付属印刷物	231,945	260,000
8. 地域活動費	300,000	225,360
9. 雑支出	19,950	40,000
10. 寄付金	500,000	0
III. 予備費	55,848	412,477
IV. 次年度へ繰入	3,958,287	0
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	34,468,456	31,833,337

基 金	平成 17 年度決算	平成 18 年度予算
運営基金	18,499,925	16,599,925
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
50 周年記念基金	758,735	0
事典委員会	104,704	2,763,439

### ◇ 学会賞授賞式・受賞講演

開催日・会場: 同上

平成 17 年度 日本育種学会賞

- ・山岸博氏 (京都産業大学工学部): ダイコン属植物の系統分化に関する遺伝・育種学的研究
- ・茶品種「さえみどり」, 「おくみどり」育種グループ (代表 武田善行氏): 緑茶用の早生品種「さえみどり」および晩生品種「おくみどり」の育成

平成 17 年度 日本育種学会奨励賞

- ・高崎剛志氏 (神戸大学農学部): 遺伝子導入によるアブラナ科自家不和合性の制御に関する研究
- ・久保友彦氏 (北海道大学大学院農学研究科): テンサイにおけるミトコンドリア DNA の全遺伝情報解読と雄性不稔性の機構解析

### 集会の案内

#### ◇ 第 1 回高崎量子応用研究シンポジウム—イオンビーム・電子線・ガンマ線を用いた材料・バイオ・環境研究—

イオンビーム利用に加えて電子線・ガンマ線照射施設を利用した研究成果の発表が行われます。会期: 平成 18 年 6 月 22 日・23 日 高崎シティギャラリー・コアホール (高崎市高松町 35 番地の 1) 参加費無料 問い合わせ先 日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所放射線高度利用施設部内 高崎量子応用研究シンポジウム 実行委員会事務局 Tel: 027-346-9614 Fax: 027-346-9601

なお, 日本育種学会は, 本シンポジウムに協賛しています。

## ◇ 広島大学の新技术フェア～バイオ分野

広島大学のバイオ分野の研究シーズを首都圏で発表するリエゾンフェア:バイオ分野の8名の研究者による研究成果のプレゼンテーションならびに相談会

主 催:財団法人バイオインダストリー協会/国立大学法人広島大学

日 時:平成18年7月28日(金)13:00～17:00

場 所:CIC 国際会議室(キャンパス・イノベーションセンター)

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

Tel:03-5440-9065 Fax:03-5440-9117

参加費:無料

プログラム:

広島大学の産学連携活動紹介

産学連携センター センター長 高萩隆行  
バイオ分野に特化したJBAの特許流通活動

(財)バイオインダストリー協会 特許流通アドバイザー  
井上薫

## 【説明会】

硬組織再生用高機能性ハイブリッドバイオマテリアルの創製

大学院医歯薬学総合研究科 教授 岡崎正之  
植物性乳酸菌の機能性食品への応用

大学院医歯薬学総合研究科 教授 杉山政則  
【発表者】科学技術コーディネータ 三宅哲雄  
簡便で高効率なIR/MAR 遺伝子増幅法による、組換えタンパク質の生産技術

大学院生物圏科学研究科 助教授 清水典明  
バイオによる石綿検出技術

大学院先端物質科学研究科 教授 黒田章夫  
ニワトリモノクローナル抗体の基礎と応用

大学院生物圏科学研究科 教授 松田治男  
海藻レクチンの利用

大学院生物圏科学研究科 教授 堀貫治  
日本一美しいカエルと透明カエル;人工繁殖技術を用いたカエルの保全と新しい系統の開発およびそれらの利用法

学院理学研究科 教授 住田正幸  
魚類細菌感染症の治療剤としてのバクテリオファージ

大学院生物圏科学研究科 教授 中井敏博

\*参加希望者は、氏名・所属・電話・Fax・参加を希望する説明会テーマ名をご記入の上、FaxあるいはE-mailにて下記宛に7月21日(金)までにお申し込み下さい。

\*会場にて個別相談会も併せて開催します。

申込み・問合せ先:〒739-0046 東広島市鏡山3-10-31

広島大学産学連携センター担当:井上,小田,堀尾

Tel:082-421-3708 Fax:082-421-3788

E-mail:oda67@hiroshima-u.ac.jp

http://home.hiroshima-u.ac.jp/techrd/index.html

## 研究助成公募の案内

## ◇ (財)バイオインダストリー協会 平成18年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者募集

1. 対象分野および対象者:化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者

2. 対象者の資格:交付の時点で、協会の会員(個人会員、または賛助会員会社・維持会員会社の役員・従業員)であり、年齢50才未満であること。

3. 採用件数:毎年7件以内

4. 奨励金:1件につき50万円

5. 申込み方法:応募用紙により、応募される研究の題目およびその概要、研究者の略歴、研究論文リスト等を提出していただきますので、ご連絡先(ご氏名、ご所属、住所、電話・Fax番号、E-mail)を明記し、下記までご請求下さい。

規定用紙のダウンロード→Wordファイル

6. 書類提出締切り:平成18年7月7日(金)必着で、応募用紙一式に記載したものを郵送してください。(電子メールによる提出は受け付けません。)

7. 選考方法:交付対象者は、本分野の学識経験者で構成する選考委員会において審議し、決定します。選考委員会の審議内容は公開致しません。

8. 問合せ・申込み先:(財)バイオインダストリー協会  
化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金事務局

(担当:土橋,矢田)

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 グランデビル8F

Tel:03-5541-2731 Fax:03-5541-2737

E-mail:grant@jba.or.jp

http://www.jba.or.jp/oshirase/H18grant.htm

## 各賞推薦の案内

## ◇ 日本学術振興会賞候補者推薦の依頼

日本学術振興会より日本学術振興会賞受賞候補者の推薦依頼がありました。学会からだけでなく学会員からの個人推薦も受け付けていますので会員の皆様にも広くお知らせいたします。日本学術振興会のホームページ(第3回日本学術振興会賞候補者推薦要項)より推薦書式様式などをダウンロードし、必要事項を記入して下記送付先にお送りください。

推薦書送付先:〒102-8471 東京都千代田区一番町6番地(住友1番町ビル)独立行政法人日本学術振興会総務部研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

Tel:03-3263-1762 Fax:03-3222-1986

http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html

締切日:平成18年6月5日(月)～9日(金)必着

1. 趣旨：我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要があります。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました。
2. 対象分野：人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野
3. 授賞：授賞数は20件程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します。なお、日本学士院の協力を得て、日本学術振興会賞受賞者のうち5名以内に日本学士院学術奨励賞が併せて授与されます。
4. 対象者：日本国籍を有する者又は外国人であって推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定している者であって、国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げた認められる者のうち、平成18年4月1日現在以下の条件を満たす者とします。
  - 1) 45才未満であること
  - 2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。）
 注：推薦書等は、2年間有効です。  
 ただし、第2回（平成17年度）に推薦された方については、1年間の研究活動により新たな研究業績を重ねていると思われることから、再推薦することを推奨します。
5. 推薦権者
  - 1) 我が国の大学の学長をはじめとする学術研究機関の長
  - 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者
6. 推薦手続
  - 1) 提出書類
    - ① 「受賞候補者推薦名簿」（機関長推薦の場合のみ）  
原本1部（様式1）
    - ② 「推薦書」原本1部、写し6部（様式2）
    - ③ 「業績調書」原本1部、写し6部（様式3）
    - ④ 「推薦理由書 A, B」\*注1それぞれ原本1部、写し6部（様式4）
    - ⑤ 論文の別刷・著書・その他の業績資料（5件以内）  
\*注2各3部
    - ⑥ 「業績調書一覧」各3部（様式5）
 注1：④は、推薦者以外の2名から、それぞれ作成いただくものです。  
 注2：⑤は、業績調書（様式3）の「②研究業績」B欄の番号に一致するようそれぞれ番号を論文の別刷等の表紙に記入し、上から若い番号順に取りまとめ、「業績調書一覧」（様式5）とともにクリップ留め（又

は梱包）してください。

## 2) 応募方法

ア) 研究機関の長が推薦する場合

(i) 候補者毎に、②～④を番号順に1部ずつ重ねて片面印刷し、左上をホチキスでとめてください。

(ii) ①を表紙とし、そのリスト順に(i)をセットして、⑤を添え提出してください。

イ) 研究者が推薦する場合

候補者毎に、②～④を番号順に1部ずつ重ねて片面印刷し、左上をホチキスでとめてください。

それに⑤を添付してください。（①は不要）

## 7. 再推薦について

第2回（平成17年度）に提出のあった推薦書のうち、平成18年4月1日現在で45歳未満の者の推薦書は、第3回（平成18年度）まで審査対象として有効（以下「キャリアオーバー」という。）となりますが、新たな研究業績を重ねていると思われることから、再推薦することを奨励します。

## 8. 受付期間

平成18年6月5日（月）～9日（金）（必着）

（午前10時から正午まで及び午後1時から午後5時まで）

## 9. 選考

日本学術振興会に設置する審査会において選考します。

## 10. 選考結果の通知

平成19年1月中旬頃推薦者に通知します。

## 11. 授賞式

平成19年3月頃に行う予定です。詳細については、選考結果とともに受賞者に通知します。

## 12. その他

1) 推薦書等は所定の様式を使用してください。なお、推薦書等は本会のホームページ（<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>）よりダウンロードすることができます。

2) 推薦書等の提出後、その記載事項を変更または補充することはできません。

3) 提出された推薦書及び業績資料等は返却しません。

4) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。

5) 受賞者の氏名、略歴及び授賞の対象となった研究業績等は公表されるのであらかじめ承知願います。

## 13. 推薦書の提出先および問い合わせ先

応募書類は下記へ持参、又は郵送にて受け取ります。

〒102-8471 東京都千代田区一番町6番地（住友1番町ビル）

独立行政法人日本学術振興会

総務部研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

Tel: 03-3263-1762 Fax: 03-3222-186

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>

**日本育種学会会員異動(2006.1.21 ~ 2006.4.20)**

- ◇ **普通会員入会**：樋浦里志（北海道），田中裕子（岩手），上野真義，岡野克紀，北本尚子（茨城），松本謙一郎（千葉），宇佐美悟（静岡），佐藤かんな（愛知），トミタフーベンスノリオ（三重），梁修静（京都），秋山征夫（大阪），寶全文（鳥取），Nisar Ahmed（岡山），尾山圭二，金川寛（広島），洲上国弘（熊本），山潤泰（宮崎）
- ◇ **学生会員入会**：太田宇香，Maria Stefanie Dwiyanti，藤田敏郎（北海道），王愛徳（青森），板橋悦子，汐海沙知子（宮城），泉館聡（山形），佐野玄周，田中篤，王寧（茨城），赤羽美智子（栃木），泉輝昭（千葉），阿部匡，泉雅之，奥西麗，小原主，片野匠，熊谷陽太，鈴木克彰，高梨秀樹，平道哲理，堀口紀子，山本裕二郎（東京），小見創介，田村忠彦，本田真理，山際宏昭（神奈川），富樫英美，MD. Asad ud-doullah（新潟），稲葉規子，北川哲，朱ヨウ（福井），松下岳（長野），伊澤康太郎，井手康人（愛知），横山実果（滋賀），青木大輔，山吹誠（京都），寺嶋彰弘，水野信之，山崎清志（兵庫），谷口祐介（奈良），吉田哲也（岡山），武田和宣，Tran Thi Thu Hoai（福岡）
- ◇ **団体会員入会**：近畿大学農学部図書館（奈良）

- ◇ **外国会員入会**：Hankil Hightechpia（大韓民国），中国教育図書進出口公司（中華人民共和国）

**住所変更等**

- ◇ **普通会員**：國廣泰史，新発田修治，松川勲（北海道），柿崎智博，横井修司（岩手），佐藤秀樹（秋田），伊藤卓朗（山形），石井卓朗，奥野員敏，中村ゆり，本城正憲（茨城），小原義規（埼玉），酒井隆子，平野智也（千葉），氏原和人，肥塚信也，田中淳一，村上泰弘，守口和基，横山勇生（東京），荻原保成，佐古彩（神奈川），山口修（新潟），藤澤雅樹（石川），古川一実（静岡），森中洋一（愛知），望月龍也（三重），清水顕史（滋賀），荻安彦（京都），谷本忠芳，新関稔（大阪），井川智子（奈良），加藤美知代，二上崇（山口），松田長生（香川），波多野哲也（熊本），住秀和（沖縄）
- ◇ **学生会員**：松村尚和（茨城），大森良弘，中村豪宏（東京），坂田清華（富山），荒木良一（兵庫），水上仁（鳥取）
- ◇ **団体会員**：沖縄県農業研究センター（沖縄）
- ◇ **外国会員**：Mio Nagano（カナダ），Jae Bok Yoon（大韓民国）